

毎日一字ずつ漢字を.....

当用漢字は一八五〇字ですが、このうち八八一字が通称“教育漢字”と呼ばれるものです。これが制定された当時は、義務教育期間(九年間)中に習得すべき漢字として、選んだものですから、“教育漢字”という名称が付いたものです。

ところが、昭和三十六年の学習指導要領の改訂の際、小学校の六年間に習得すべきものと改められました。さらに、昭和四十六年には、これに百十五字を加えて、小学校を卒業するまでに習得すべき漢字が九九六字となりました。

このように、改訂のたびごとに学習漢字がふえて来ましたが、それでも、六年間に学習する漢字が一千字に達しません。一日に一字ずつ覚えていったら、三年間でも一千字は覚えられるのです。

幼児期の幼児は、一日に一字くらい覚えるのは何でもありません。負担になるところか楽しみになるくらいのもので、だから、幼児期に、毎日一字ずつ漢字を教える計画を立てることをお奨めします。

「石の上にも三年」という諺もありますように、何事でも、三年くらいは

継続してやるのが大切です。そのくらいの辛抱が出来ないようでは、何をしても成功は望めません。漢字教育も一日一字の学習を三年間続けたら、一千字を超えます。

小学校へ就学する三年前から始めたら、小学校の一年生になるころには、一千字の漢字が読めるようになっているはずですが、今の中学一年生の漢字力よりも上回るようになりますから、小学生向けの書物だったら、どんなものでも、ラクラクと読めるようになっているはずですが。

そうなれば、理科の教科書でも社会科の教科書でも、すらすら読めて、すぐに理解できるはずですが、そうなれば、学校へ行くのが楽しい、成績の良い子供に自然となります。